

令和2年11月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年11月分について、輸出額は「自動車」、「金属加工機械」などが減少したことから、対前年同月比3.9%の減少となった。また、輸入額は「有機化合物」などが増加したものの、「原粗油」、「液化天然ガス」などが減少したことから、同14.1%の減少となった。

その結果、差引額は6,130億円（同3.1%の増加）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

○総額

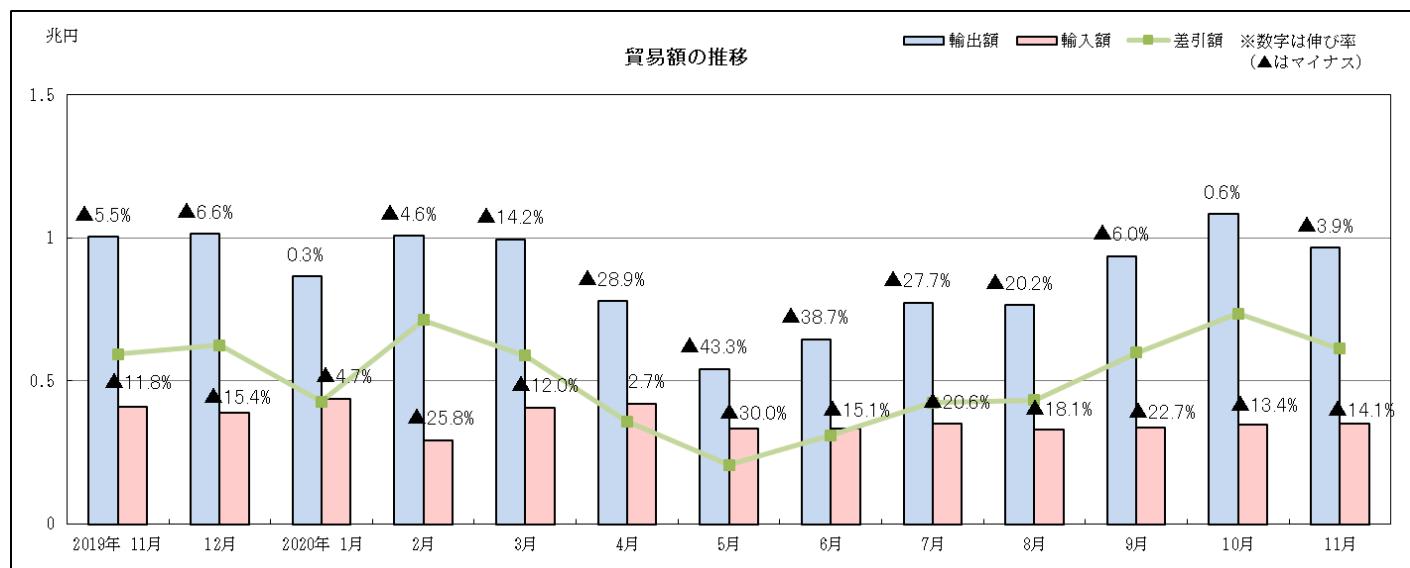
区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	9,657億円	▲3.9%	3,527億円	▲14.1%	6,130億円	+3.1%
	2ヵ月ぶりの減少		7ヵ月連続の減少		3ヵ月連続の増加	
管内（名港シェア）	1兆5,425億円 (62.6%)		6,415億円 (55.0%)		9,010億円 (—)	
全国（名港シェア）	6兆1,136億円 (15.8%)		5兆7,469億円 (6.1%)		3,668億円 (—)	

注) 名古屋港における輸出額は、令和2年9月以降3ヵ月連続 全国港別第1位（空港を含む）

注) 名古屋港における差引額は、平成23年6月以降114ヵ月（9年6ヵ月）連続 全国港別第1位（空港を含む）

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出 出少	(1)	自動車	2,502億円	▲10.0%	▲2.8	10ヵ月連続の減少
	(2)	金属加工機械	241億円	▲29.8%	▲1.0	18ヵ月連続の減少
輸入 入少	(1)	有機化合物	132億円	+46.7%	+1.0	4ヵ月ぶりの増加
	(2)	原粗油	66億円	▲75.7%	▲5.0	2ヵ月ぶりの減少
		液化天然ガス	158億円	▲45.8%	▲3.3	5ヵ月連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。